

◆ 板橋都税事務所長賞 ◆

「くらしと税」

板橋区立上板橋第二中学校 9年 杉原 茉優

私は図書館が好きだ。静かで落ち着いた雰囲気、たくさん本が並ぶ空間、すべてが心地よいからだ。最近では週に4回以上も行くほど好きな作家の本を借りたり、勉強をしたりと様々な用途で使用している。もちろんこの作文も図書館で書いている。思い返すと私は幼少期から頻繁に図書館に通っており、小さいころは母と一緒に絵本や紙芝居を読んだり、自由研究のときには資料を借りたりしていた。また私をはじめ文庫本に触れた場所でもあり、今では文庫本が大好きだ。あるときその昔から通っていた図書館が改装工事をする事になった。思い出のある図書館だったので少し寂しさを感じつつも、きれいな図書館になるのが楽しみだった。工事が終わったとき私はすぐに図書館に行った。新しくなった内装はとてもきれいでたくさん本も追加されていた。そのときふと、この図書館が工事されたときや本が追加されたときの費用はどこから出ているのか疑問に思った。気になって調べてみると、すべて税金でまかなわれていることがわかった。私はとても驚いた。今まで税金の使い道はよく知らなかったが、自分が思っていたよりも身近で使われていたからだ。

世の中には、税金が高い！もっと下げて！という人がいるが、私も少し共感する点があった。買い物をしたときに税金がかからなければもっとたくさん買えるのになあ、と思っていた。しかし私たちが税金を支払うことで図書館などの公共の施設を利用することができている。つまり、税金は納めるだけでなくちゃんと私たちに返ってきているということだ。また、私は税金について知ることで、税金の見方が変わるのではないかと考えた。実際、私も税金の使われ方を知らなかったときは税金に対してあまりいい印象を持っていなかった。そのため、まず、税金について少しでも疑問が解消したとき、私たちは義務感ではなく、心から払おうと思えるはずだ。

私はこれからどんどん成長していき、いずれ大人になる。大人になると税金を納める金額も大きくなっていくため、税金を支払う意味をよくわからないまま支払うと不満も募っていくと思う。だから、私は税の役割をしっかりと理解し、前向きな気持ちで税を納めることができる大人になりたい。